

問題

《中国の都市》

次の文章（A～F）を読み、後の問に答えよ。

（20点）

- A 日本による中国侵略が進んでいた1936年、①中国国民党の指導者 が一時監禁されるという事件が起こり、これを機に中国国民党は中国共産党との協力関係を築いた。
- B 隋の煬帝が建設した大運河の最南端に位置する都市は、水陸交通の要地として発展した。この都市は南宋の都ともなり、当時 と呼ばれていた。
- C 1851年、 が清朝打倒を掲げて挙兵し、太平天国の乱が起こった。太平天国軍は②1853年に占領した都市を天京と改称して首都とした。
- D 唐代半ば、③早くから海上貿易で栄えていたある港市に、海上貿易事務を司る市舶司が初めて置かれた。18世紀半ば以後、この地の特許商人の組合である が清朝の外国貿易を独占した。
- E 後漢の時代、クチャ（亀茲）には西域都護府が置かれていた。クチャは魏晋南北朝時代の中国で活躍した仏図澄・鳩摩羅什らの出身地でもある。7世紀半ば以後、唐は西域支配のためこの地に 都護府を置いた。
- F 水運の結節点に位置する大運河沿いのある都市は、物資を運ぶ際の中継地として発展した。五代の王朝のうち、この地を都としなかった王朝は だけである。④この都市は、のちに北宋の都ともなり、人口100万人を擁するに至ったといわれる。

問1 文章中の(a)～(f) に適する語をそれぞれの語群から1つずつ選び、記号を記せ。

（12点）

- (a) ア 張学良 イ 周恩来 ウ 蔣介石 エ 汪兆銘 オ 袁世凱
 (b) ア 上海 イ 臨安 ウ 成都 エ 明州 オ 泉州
 (c) ア 朱元璋 イ 洪秀全 ウ 朱全忠 エ 趙匡胤 オ 李自成
 (d) ア 会館 イ 公所 ウ 瓦子 エ 牙行 オ 公行
 (e) ア 安西 イ 安東 ウ 安北 エ 北庭 オ 单于
 (f) ア 後唐 イ 後晋 ウ 後漢
 エ 後周 オ 後梁

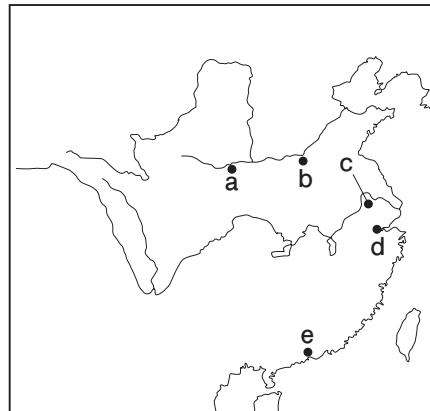
問2 下線部①の「事件」が起こった都市の位置を右の地図中の a～e から選んで記号を記せ。

（2点）

問3 下線部②の「都市」の位置を右の地図中の a～e から選んで、記号を記せ。（2点）

問4 下線部③の「港市」の位置を右の地図中の a～e から選んで、記号を記せ。（2点）

問5 下線部④の「都市」の位置を右の地図中の a～e から選んで、記号を記せ。（2点）



ポイント

中国の都市に関して問うた。地図を用いた問題は苦手とする受験生も多いが、入試ではしばしば出題されるので、地理的知識をしっかりと身につけてほしい。

解答

問1 (a) ウ (b) イ (c) イ (d) オ (e) ア (f) ア
問2 a 問3 c 問4 e 問5 b

解法

中国の都市の位置については、今回のように地図を用いて問われることがよくある。黄河・長江の二大河川や海岸線との位置関係を確認しながら押さえておくといよい。まずは歴代王朝の都の位置を確認しておこう。

▼中国史上の主な首都



北京	元（大都）・明・清・中華人民共和国
開封	後唐を除く五代諸王朝（大梁、汴州）・北宋（汴京）
洛陽	東周（洛邑）・後漢・魏・西晋・北魏・後唐
西安	前漢（長安）・西魏（長安）・北周（長安）・隋（大興城）・唐（長安）
南京	呉（建業）・東晋（建康）・南朝（建康）・明（金陵）・中華民国国民政府

解説

問1-(a)・問2 Aは地図中のaで起こった西安事件の説明である。1936年12月、中国共産党討伐を行っていた蔣介石は、討伐の督促のために西安を訪れたところ、共産党軍との内戦停止と一致抗日を求める張学良・楊虎城らによって監禁された。共産党の周恩来が説得に加わり、一致抗日に同意した蔣介石は釈放され、翌1937年、盧溝橋事件ののちに共産党との協力関係を築き、第2次国共合作を成立させた。

問1 (b) Bは地図中のdに当たる杭州の説明である。杭州は隋の煬帝（位604～18）が建設した大運河の南の起点となり、以後、水上交通の要衝として発展した。杭州は、南宋時代には臨安と呼ばれ、1138年に降は南宋の都となった。

(c)・問3 1851年、広西省金田村で上帝会（拝上帝会）の洪秀全を指導者とする反乱軍が挙兵し、太平天国を建てた。太平天国軍は清軍を破って北上し、1853年に南京を占領して天京と改称し、この地を首都とした。

◀ここもチェック

杭州は元代にも繁栄を続け、マルコポーロは“キンザイ”の名で杭州の繁栄ぶりを記録している。

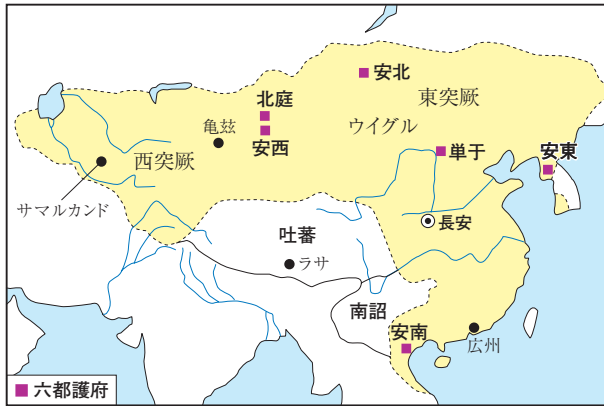
南京は地図中のcに当たる。

問1-(d)・問4 Dは地図中のeに当たる**広州**の説明である。市舶司は、唐の玄宗（位712～56）の時代に広州に置かれたのが最初である。清の乾隆帝（位1735～95）は、1757年以降、海外貿易の窓口を広州1港に限定し、**公行**と呼ばれる特許商人組合に独占的に取引を行わせた。

問1-(e) クチャ（亀茲）はタクラマカン砂漠の北に連なる天山山脈の南麓に位置し、後漢代に西域都護府が置かれたほか、唐代にも**安西都護府**が置かれるなど、古くから中国の王朝による西域支配の拠点とされた。

(f)・問5 Fは地図中のbに当たる**開封**の説明である。開封は、隋代に開通した大運河と黄河が交わる地点に近く、江南から運ばれた物資が集積する水運の拠点として繁栄した。唐末にこの地で節度使となった朱全忠が907年に唐を滅ぼして後梁を建てた後、華北では後唐・後晋・後漢・後周の5つの王朝が興亡し、**後唐**を除く各王朝は開封（汴州）を都とした。

▼7世紀のアジア



✔ここもチェック

後唐は洛陽を都とした。

▶プラスα

安西都護府は初め高昌に置かれたが、まもなく亀茲に移された。